

無痛分娩(硬膜外麻酔)に関する説明文書

育良クリニック 院長
更新 2025 年 4 月 10 日

患者様へ

当院では、出産時の痛みを和らげる方法として「無痛分娩(硬膜外麻酔)」を行っています。この説明文書は、無痛分娩に関する正しい理解と同意を得るためのものです。内容をよくお読みいただき、ご不明な点があれば診察時など遠慮なくご質問ください。

1. 無痛分娩とは

無痛分娩は、陣痛や分娩時の痛みを軽減するために、硬膜外麻酔と呼ばれる方法を用いて行います。背中(腰のあたり)から細いチューブ(カテーテル)を挿入し、そこから麻酔薬を投与します。

完全に痛みがなくなるわけではなく、痛みを和らげることを目的としています。

2. 担当体制

当院では、安全・安心な無痛分娩を行うため、以下の体制で対応いたします。

- ・分娩管理：産婦人科医 1 名以上
- ・麻酔管理：麻酔科医 1 名(麻酔管理・緊急時対応)以上
- ・助産師：3 名(母体・胎児のケア)

3. 実施方法

①麻酔前の確認

- ・問診、診察、必要に応じて血液検査を行います。
- ・既往歴やアレルギー、服薬内容の確認も行います。

②麻酔の準備

- ・分娩進行中、もしくは事前に麻酔開始のタイミングを決定します。
- ・背中を丸めた体勢で、清潔な操作下でカテーテルを挿入します。

③麻酔薬の投与

- ・初回に麻酔薬を投与し、痛みの軽減を確認します。
- ・効果が安定した後は、必要に応じて追加投与または持続注入します。

④分娩中・出産後の管理

- ・母体と胎児の状態をモニタリングしながら安全に分娩を進めます。
- ・出産後も一定時間は麻酔の影響を観察します。

4. 麻酔の効果と限界

- ・陣痛の痛みを軽減し、出産時の消耗を抑えることができます。
- ・麻酔の効き方には個人差があり、痛みが完全に取りえない場合もあります。
- ・麻酔の効く範囲や強さは、分娩の進行や赤ちゃんの位置によっても影響されます。

5. 起こりうる合併症と副作用(日本産科麻酔学会ガイドラインより)

・よくある副作用

①血圧低下

②発熱

③かゆみ

④しびれ感・足の脱力感(通常は一時的)

・まれに起こる合併症

①硬膜穿刺後頭痛(数日続く頭痛)

②局所麻酔中毒(極めてまれ)

③脊髄損傷、感染、出血(極めてまれ)

・その他注意点

分娩が長引く、陣痛の弱まりによる器械分娩(吸引・鉗子)や帝王切開の可能性がやや高くなります。

6. 無痛分娩の実施にあたっての注意事項

・挿入部位に皮膚疾患がある場合、または重篤な出血傾向、心疾患、神経疾患などがある場合には実施できないことがあります。

・事前の同意書提出が必要です。

・緊急時には安全のため、麻酔の中止や他の分娩方法への切り替えを行うことがあります。

7. ご本人の意思を尊重します

無痛分娩はご本人の意思に基づいて実施されるものです。ご家族ともご相談のうえ、慎重にご判断ください。

以上